InSEA

公益社団法人
日本美術教育連合ニュース

No. １６７

２０２３．４

〒113-0033　東京都文京区本郷2-30-14　文京ビル206号
公益社団法人　日本美術教育連合
発行人　理事長　大　坪　圭　輔
ニュース担当　　岩　﨑　仁　美
E-mail:info@insea-in-japan.or.jp

巻頭言

日本美術教育連合理事・事業局運営委員長　三　澤　一　実

美術嫌いの人に美術のよさをどんなに説明しても美術好きにはできない。嫌いな人は魅力を饒舌に語られてもそんな話は聞きたくないだろう。長年多くの人に美術の素晴らしさを語ってきたが未だ越えられない壁がそこにある。変容には魅力を実感できる体験が必要なのである。

今回、学習指導要領の目標が全教科を通して３つの資質・能力に整理された。それまで曖昧だった美術の「知識」が新たに〔共通事項〕に位置づけられた。〔共通事項〕とは、色彩や形、材料や光などの持つ特徴が、人間の生み出すイメージと密接に関連するという、表現及び鑑賞に共通する知識である。美術の「知識」は、色彩や形などの造形の要素と、生成されるイメージとの関係を理解することにある。一般的に私たちは言語化された概念的な知識（意味や情報）を知識と呼んでいるが、美術では、個人の個別な体験で生み出された感情が意味と結びついたものを「知識」と呼ぶのである。

ある団体が全国の中学校美術の免許を持った専任配置校数を調べている。東京都では免許外教員配置校は計上されていないが、免許外教員配置が半数近い県もある。さらに近年増えているのは非常勤対応の学校である。授業だけ担当する非常勤は子どもたちの学校生活に深く関わることはなかなか出来ない。

先日、某県が児童生徒美術展を休止するという話を聞いた。専科教員の不足と働き方改革による時間外勤務削減で展覧会を維持できないという。働き方改革はデジタル化と一体で達成できるものだ。

美術の学びは体験にある。全ての国民が大人になるまでに美術で心が動かせられる体験があれば美術はもっと大切にされるであろうし、得た知識を活用してより心豊かな生活を生み出すことが出来るだろう。子ども時代に琴線に触れる美術との出会いが大切なのである。その琴線の在処（ありか）は決して大人や教師と同じでは無い。

私たちはAIではない。人との繋がりの中で学び多様な知恵を増やしていくのだ。リアルに繋がることで個々の経験を活かしたネ巨大なネットワークブレーンが生成される。未来の希望は私たちの行動の中に大いに潜んでいるのである。

令和５（2023）年度第13回定時総会　招集通知

下記の要領で定時総会を開催いたしますので、会員の皆様はご出席のほどをお願いします。

□日　時：令和５（2023）年５月14日（日）13：00－14：00
□場　所：東洋大学白山キャンパス５号館１階5104教室（予定）　対面及びオンライン配信による開催（Zoom）
ミーティングID：816 7920 1724　　パスコード：580929
URLは連合ホームページ（http://insea-in-japan.or.jp/）でもお知らせします。
□議　案：①令和４（2022）年度事業報告　②令和４（2022）年度決算　③報告事項
（詳細は連合ホームページをご覧ください。http://insea-in-japan.or.jp/）
□出　欠：ご欠席の場合は、委任状を必ずご送付ください。
□総会記念講演会：14：30－16：30 対面及びオンライン配信による開催（Zoom）
ZoomのURL、ミーティングID、パスコードは総会と同じです。
題目：「ヒトに寄り添うモノ」と「モノに寄り添うヒト」
講師：医学者　富田直秀（京都市立芸術大学客員教授、京都大学名誉教授）

研究局より

■令和４（2022）年度 研究局活動報告■

日本美術教育連合理事・研究局運営委員長　結　城　孝　雄

本年度 研究局の活動にご理解を賜り、様々にご支援いただきありがとうございました。お陰様を持ちまして、研究会の開催、研究誌の発刊を滞りなく実施することができました、謹んでお礼申し上げます。

以下活動の概要を報告いたします。

研究発表会

名　　称：第56回日本美術教育研究発表会2022
後　　援：文化庁
開催日時：令和４（2022）年10月16日（日）9：00 - 15：30
場　　所：zoom上オンライン
開催形式：リアルタイム配信
会場設定：６室（Ａ－Ｅ＋予備室）
発表件数：25件（内モジュール：３件、単独：20件、共同：５件）
参 加 者：88名;一般69名（大36、短大６、高３、中６、小４、幼２、特１、美１、出版２、その他８）
　　学生19名

研究誌刊行

名　　称：『日本美術教育研究論集 No.56　2023』刊行
令和５（2023）年３月31日刊行
掲載論文：Ⅰ群４件、Ⅱ群13件、Ⅲ群４件 計21件 掲載可

■実施概要

コロナ状況下で３回目の研究発表会実施に向けて昨年度の反省をもとにオンラインでの開催準備を行う。Web関係では笠原運営委員、手塚運営委員、岩﨑運営委員、概要文の校正編集については、藤井研究局員と赤木研究局員のご尽力により支障なく準備が整えられた。

連合ニュース165号（2022. ７）に「第56回日本美術教育研究発表会2022一次案内」、および166号（2022. ９）とHPに「第56回日本美術教育研究論集2023【投稿および掲載要項】」、を最終案内と研究発表時間割を掲載した。小林運営委員、山田運営委員、山口運営委員、竹内運営委員のご尽力によりリハーサルを実施、当日の発表会も運営役員各位のご対応，参加者の皆様のご協力により支障なく運営された。今年度も北澤事務局長のご手配で文化庁後援が実現した。

立川編集委員長の元、論集誌編集委員会が開催され、慎重な査読と審議によって、Ⅰ群（研究論文）４件、II群（実践研究報告）13件、III群（研究ノート）４件、計21件が査読を通過し、『第56号日本美術教育研究論集2023』を３月31日に刊行、会員に頒布される。

事業局より

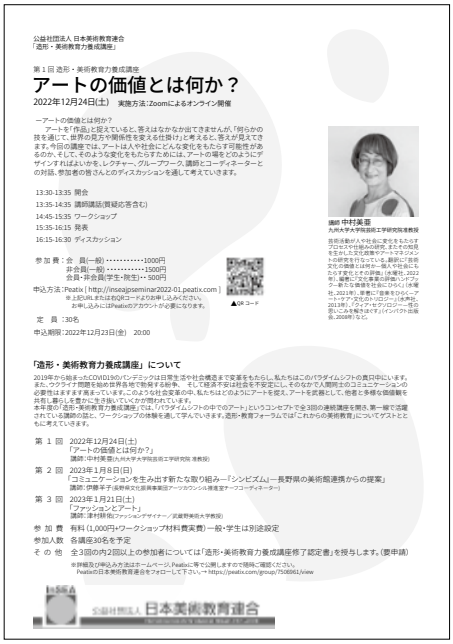
■公益社団法人日本美術教育連合主催 造形・美術教育力養成講座 第7期 報告■

日本美術教育連合理事・事業局運営委員長　三　澤　一　実

「造形・美術教育力養成講座」は2018年度から連続講座を開催してきました。そこでは美術及び美術教育を幅広くとらえ、社会における美術教育の理解を広げ、その拡充を図るとともに、子どもと造形表現に関する理解を深めたり、教育としての美術の可能性を考えたりするなど、講義と演習を通して教育実践力等を高める造形・美術教育力養成講座を展開してきました。

第１回講座「アートの価値とは何か？」

⑴日時：令和４（2022）年12月24日（土）13：30～16：30
⑵内容／参加者数：講演とワークショップ／21名
⑶講師：中村美亜（九州大学大学院芸術工学研究院准教授）
⑷概要報告：「アートの価値とは何か？」をテーマに講話とワークショップを実施しました。講座前半の講話では、アートの在り方が「モノ」から「コト」へ推移する中で、アートマネジメント／文化政策研究では芸術的価値を「コミュニケーション」に求め、市民の多元的な関与や参加を生むことに文化的価値を置いていることについて概説し、後半のワークショップでは「市区町村のコミュニティセンターで様々な世代が混じり合うアートワークショップを企画し、その企画書を作成する」についてグループワークで取り組みました。


公益社団法人 日本美術教育連合
「造形・美術教育力養成講座」

第１回 造形・美術教育力養成講座
アートの価値とは何か？
2022年12月24日(土)　実施方法:Zoomによるオンライン開催

ーアートの価値とは何か？
アートを「作品」と捉えていると、答えはなかなか出てきませんが、「何らかの技を通じて、世界の見方や関係性を変える仕掛け」と考えると、答えが見えてきます。今回の講座では、アートはいかに社会にどんな変化をもたらす可能性があるのか、そして、そのような変化をもたらすためには、アートの場をどのようにデザインすればよいかを、レクチャー、グループワーク、講師とコーディネーターとの対話、参加者の皆さんとのディスカッションを通して考えていきます。

13:30-13:35 開会
13:35-14:35 講師講話(質疑応答含む)
14:45-15:35 ワークショップ
15:35-16:15 発表
16:15-16:30 ディスカッション

参加費：会　員(一般)・・・・・・・・・・・・1000円
非会員(一般)・・・・・・・・・・・・1500円
会員・非会員(学生・院生)・・500円
申込方法：Peatix (http://insea@seminar2022-01.peatix.com)
※上記URL または右記QRコードよりお申し込みください。
お申し込みにはPeatixのアカウントが必要になります。
▲QR コード
定　員：30名
申込期限：2022年12月23日(金)　20:00

講師 中村美亜
九州大学大学院芸術工学研究院准教授
芸術活動が人や社会に変化をもたらすプロセスや仕組みの研究、またその知見を生かした文化政策やアートマネジメントの研究を行っている。翻訳に「芸術文化の価値とは何か－個人や社会にもたらす変化とその評価」(水曜社、2022年)、編著に「文化事業の評価ハンドブック－新たな効果を社会に示せ」(水曜社、2021年)、単著に「音楽をひらくシェートーヤ－文化のトロピアーノ」(水声社、2013年)、「ライフ・セクシロロジー－性の豊かさを解きほぐす」(インパクト出版会、2008年)など。

「造形・美術教育力養成講座」について
2019年から始まったCOVID19のパンデミックは日常生活や社会構造まで変革をもたらし、私たちはこのパラダイムシフトの真只中にいます。また、ウクライナ問題を始め世界各地で勃発する紛争、そして経済不安は社会不安定にし、そのなかで人間同士のコミュニケーションの必要性はますます高まっています。このような社会変革の中、私たちはどのようにアートを捉え、アートを武器として、他者と多様な価値観を共有し、暮らし、未来のに生き抜いていくのが問われています。
本年度の「造形・美術教育力養成講座」では、「パラダイムシフトの中での「アート」」というコンセプトで全３回の連続講座を開き、第一幾で活躍されている講師の話と、ワークショップの体験を通して学んでいきます。造形・教育フォーラムでは「これからの美術教育」についてゲストとともに考えていきます。

第１回　2022年12月24日(土)
「アートの価値とは何か？」
講師：中村美亜(九州大学大学院芸術工学研究院 准教授)
第２回　2023年１月８日(日)
「コミュニケーションを生み出す新たな取り組み－「シンビズム」－長野県の美術館連携からの提案」
講師：伊藤羊子(長野県文化振興事業団アーツカウンシル推進室チーフコーディネーター)
第３回　2023年１月21日(土)
「ファッションとアート」
講師：津村耕佑(ファッションデザイナー／武蔵野美術大学教授)
参加費　有料 (1,000円+ワークショップ材料費実費)一般・学生は別途設定
参加人数　各講座30名を予定
その他　全３回の内２回以上の参加者については「造形・美術教育力養成講座修了認定書」を授与します。(要申請)
※詳細及び申込み方法はホームページ、Peatixに等で公開しますので随時ご確認ください。
Peatixの日本美術教育連合をフォローして下さい。→ https://peatix.com/group/7508961/view
InSEA　公益社団法人 日本美術教育連合

第２回講座「新しい授業参加を創造するデザイン」

⑴日時：令和５（2023）年１月８日（日）13：30～16：30
⑵内容／参加者数：講演とワークショップ／27名
⑶講師：伊藤羊子（信州アーツカウンシル）ほか６名
⑷概要報告：前半は伊藤洋子氏がシンビズム（長野県芸術監督団事業）の成立から現在に至るまでを映像を交えながら講演しました。後半は参加者が６つのグループに別れ，参加者の「大切なもの」を紹介する展覧会を企画するワークショップを行いました。ワークショップでは中嶋実氏（小海町高原美術館学芸員），佐藤聡史氏（東御市丸山晩霞記念館館長），中田麻衣子氏（茅野市美術館学芸員），河西見佳氏（イルフ童画館チーフ学芸員），矢ケ崎結花氏（太田市美術館・図書館主任学芸員），梨本有見氏（須坂版画美術館学芸員）の６名がファシリテーターとしてワークショップを牽引しました。

《第８期》日本美術教育連合
造形・美術教育・造形力養成講座「第２回」

コミュニケーションを生み出す新たな取り組み
―「シンビズム」―長野県の美術館連携からの提案

長野県では県内美術館などの学芸員が所属を超えて交流し、同じ立場で協議しながら信州ゆかりの出品作家を紹介するなど美術館の新しい形を提案し、その活動は全国でも稀有な取り組みとして注目を集めています。今回は講師に伊藤羊子氏を迎え、伊藤氏と県内の６名の学芸員が参加者と協働し美術展を企画するワークショップを通して「コミュニケーションとこれからの美術教育」について考えていきます。

講師：伊藤羊子（信州アーツカウンシル　チーフコーディネーター）
キシンビズムから６名の顔ぶれ・学芸員
河西見佳 イルフ童画館
佐藤聡史 丸山晩霞記念館
日時：2023年１月８日（日）　13:00～15:00
オンライン Zoomによる　定員３０名
申し込みはこちら→２次元コード
参加費：会員，1,000円
非会員（一般）1,500円　学生 500円
https://insea@seminar2022-02.peatix.com
中嶋実 小海町高原美術館
矢ケ崎結花 太田市美術館・図書館
梨本有見 須坂版画美術館
中田麻衣子 茅野市美術館
集合写真
シンビズムのメンバー「竜美術館所蔵作品展」撮影：田中徹
InSEA
「造形・美術教育力養成講座」では、「パラダイムシフトの中での「アート」」というコンセプトで全３回の連続講座を開き、第一幾で活躍されている講師の話と、ワークショップの体験を通して学んでいきます。
公益社団法人 日本美術教育連合
International Society for Education through Art in JAPAN

第３回講座「ファッションとアート-クロスファッション」

⑴日時：令和５（2023）年２月18日（土）13：30～16：30
⑵内容／参加者数：講演とワークショップ／13名
⑶講師：津村耕祐（武蔵野美術大学教授）
⑷概要報告：第３回は津村耕祐武蔵野美術大学空間演出学科教授を講師に招き「ファッションとアート－クロスファッション」というテーマで講演とワークショップを行いました。講演では、講師が手がけているファッションブランド「ファイナルフォーム」のコンセプトやファッションとは何かについて話を伺いました。後半のワークショップでは、身の回りにあるものを身に付け写真に撮り、それをパワーポイント上の額に入れ込みプレゼンボードを作るワークを４つのグループに分け行いました。各グループにワークのテクニカルサポートのスタッフが入り展開しました。最後に各作品を講師が批評して終了しました。

連続講座の２/３以上を受講し、規定を満たした９名の参加者には公益社団法人日本美術教育連合の「認定書」を授与いたします。

■2023年 公益社団法人日本美術教育連合総会記念講演会のお知らせ■

日時：令和５（2023）年５月14日（日）14：30～16：30　対面及びオンライン配信による開催
会場：東洋大学白山キャンパス５号館１階5104教室
題名：「ヒトに寄り添うモノ」と「モノに寄り添うヒト」
講師：医学者　富田直秀（京都市立芸術大学客員教授，京都大学名誉教授）
概要：講師は、ヒトにモノが寄り添うための技術、たとえば有用性、快適性、利便性、安全性といった目標の最適化を行ってきました。近年では、IT（Information Technology）などの知性的な技術の発展によって、触れ合い、愛着、生きる意欲、ANSHINといった感性さえも目標化、最適化されつつあります。講演では，講師が京都市立芸術大学の新入生たちに交じって体験した活動内容などを紹介し、どのようにしてヒトがモノに寄り添えるのか、といった話題を双方向形式で話し合っていきます。

プロフィール：1981年早稲田大学大学院理工学研究科博士課程前期修了。1987年佐賀医科大学医学部医学科卒業（医師国家試験合格）。奈良県立医科大学整形外科学医師、京都大学生体医療工学研究センター助教授、京都大学国際融合創造センター創造部門教授、京都大学大学院工学研究科教授などを歴任。2016年、第14回産学官連携功労者表彰「科学技術政策担当大臣賞」受賞。

事業局より

■造形・美術フォーラム2022「これからの美術教育を考える」〈報告〉■

事業局　岡　田　京　子

日時：令和４（2022）年12月11日（日）13：00 ～ 15：00
　　Zoomシステムを用いたオンライン方式による
講師：板倉　　寛氏　文化庁文化経済・国際課長（併）内閣官房内閣参事官（内閣官房副長官補付）
　　東良　雅人氏　京都市教育委員会 京都市総合教育センター副所長

公益社団法人 日本美術教育連合

造形・美術フォーラム 2022

「これからの美術教育を考える」

対談　板倉 寛氏 ✕ 東良雅人氏

学習指導要領も小学校では全面実施から３年が経とうとしています。
コロナ禍を経て、美術教育にはどのような視点が必要となってきたのでしょうか。
次期改訂への展望も含め「これからの美術教育」として、「令和の日本型学校教育」中教審答申に関わった板倉寛氏（文化庁文化経済・国際課長（併）内閣官房内閣参事官）と現行の学習指導要領作成に関わった東良雅人氏（前文科省視学官/京都市教育センター副所長）の対談を通して考えていきます。

日　　時　：2022 年 12 月 11 日（日）13：00～15：00　（Zoom 入室開始 12：50～）
参 加 費　：無料
募集人数　：100 名
実施方法　：Zoom によるオンライン開催
申し込み期限　：2022 年 12 月 8 日（木）
問い合わせ先　t_ohsugi@musashino-u.ac.jp（大杉まで）

申込方法：Peatix
https://inseiji-zoukeiforum2022.peatix.com
※上記 URL または右 QR コードよりお申し込みください。
お申し込みには Peatix のアカウントが必要になります。

板倉　寛（いたくら　ひろし）

文化庁文化経済・国際課長
（併）内閣官房内閣参事官（内閣官房副長官補付）

1999 年文部省（現文部科学省）入省。体育課、学校健康教育課、教育課程課係長、内閣官房副長官補室参事官補佐、高都整備推進室子育て支援推進室調整監、同整教育委員会総務課長、特別支援教育課課長補佐、大臣政務官秘書官、初等中等教育企画課課長補佐、在英国日本国大使館参事官（外務省出向）、文部科学省初等中等教育局教科調査官兼教科調査官兼視学官、初等中等教育局企画官、情報教育・外国語教育課長、学校デジタル化プロジェクトチームリーダー、GIGA StuDX 推進チームリーダーなどを経て現職。

東良　雅人（ひがしら　まさひと）

京都市教育委員会　京都市総合教育センター副所長
京都市立芸術大学客員教授
1962 年京都生まれ
1987 年に京都市立中学校の美術科教諭として教職に就く。その後、京都市立小学校の図画工作専科教員を経て、2002 年から京都市教育委員会の指導主事として教育行政に携わる。
2011 年、文部科学省初等中等教育局教育課程課の教科調査官及び国立教育政策研究所教育課程センターの教育課程調査官として着任。2018 年からは、文部科学省初等中等教育局の視学官を担かすとともに、文化庁参事官（芸術文化担当）教科調査官を併任。2021 年４月より、現職。

InSEA

公益社団法人 日本美術教育連合

造形・美術フォーラム2022では、「これからの美術教育を考える」として、「令和の日本型学校教育」中教審答申に関わった板倉寛氏と、現行の学習指導要領作成に関わった東良雅人氏からご講演と対談をいただき、全国各地から73名の参加がありました。

ご講演では、板倉寛氏からは、「学習指導要領と個別最適な学び・協働的な学び」「学習指導要領とGIGAスクール構想」「STEAM教育と芸術教育」「著作権法の基礎」について、東良雅人氏からは、教育全体の中で、今後の芸術教育がどうあるべきかを考えていく必要性について中央教育審議会教育課程部会やSTEAM教育などを例にお話いただきました。

対談では「学習指導要領は、10年後を見据えてどのように設定されていたか」「コロナ禍を経て、どのような視点が必要になってきたか」「次回の学習指導要領への展望」についてお話しいただきました。詳しくは、来年度の日本美術教育連合論集に掲載予定ですが、ここでは、私たちへのメッセージともいえる「次回の学習指導要領への展望」から抜粋して紹介いたします。

板倉氏：私が日本に戻ってきた頃、学びに向かう力の重要性が広く認識されるようになってきていることを感じました。つまり、教育が目指す姿は人生100年時代最後まで成長できる自分をつくりあげられるようにすることだろうということです。それを実現するために、やはりメタ認知が大事になってくる。自分を成長させるエンジンを常にもつことがとても大事です。これからの時代を生きていくために必要な共通的な要素が間違いなくあると思っています。著作権の話にあえて触れたのも、美術教育に関わる先生方は創造性を大事にする人たちだからです。創造性のためにも著作権を大事にしていくということを、学校の先生方が言っていくことが重要です。これからの時代、感性、想像力や創造性は確実に上がると考えています。英国は今、クリエイティブ産業が非常に伸びていて、経済成長でいうと英国経済全体の平均成長率と比べクリエイティブ産業は２倍ぐらい伸びています。文化経済の

話をすると産業に寄り過ぎと捉えられることもあるのですが、私はそう考えていません。新規で若者がこの分野に関わってみたいと思えるかは、一定程度、経済として回せるかということにかかっているところが大きいです。そこに再投資がされるような状態にすることも大事で、おそらく教科における美術教育とか芸術の重要性も、一定程度関連があると思います。経団連や経済同友会と仕事をすると、アートに対する期待は非常に高まっていると感じます。美術教育、芸術教育がねらっている部分が、これからの時代に必要とされる能力に近くなっているということです。そこを、ちょっと高い目線から、芸術教育は他の教科とも連動しながら広く攻めていくという考えは大変大事だと思います。STEAM教育も、芸術教育が打って出る場面であると思っています。感性、想像力、創造性を育む話を、広い視点で他の教科にも影響を与えるような形でうまく考えていければいいですね。社会と繋がるような学校教育を積み重ねていくことを、芸術教育関係者の方々には担っていただきたいと思っています。

東良氏：資質・能力ベースは、もう特別なものではなくてマストです。これをしなければ教科として存続ができないと言っても過言ではありません。それを踏まえた上で、これからの改訂に向けて、ぜひ忘れないでほしいのが、図画工作や美術の時間が、子どもにとってどんな時間なのかということを考えるということです。私は三つの時間だと思っています。一つ目は、自分の世界観をもてる時間です。自分の世界をつくれる、自分の視点から世界を見ることができる時間です。そのために、一人一人の個性やよさを伸ばす授業を大事にしてきたのだと思います。二つ目は様々な世界観に出会う時間です。他の人とともに学ぶことで、様々な世界と出会う時間になります。授業の中で同じ大きな方向性に向かってやっていても、いろんな答えがあり、様々な世界と出会います。多様性です。答えは一つではないことを言葉で教えるのはなく、活動を通して、その時間を通して子どもが実感して、一つの答えに収束するものばかりが学校の勉強ではないと子どもが気付くのです。三つ目は、自分事になる時間です。図画工作や美術の時間は、子どもたちの主体的な意味付けと関係付けによって初めて成立します。現行の学習指導要領では、表現するときに、小学校図画工作では、表したいことを見付ける、中学校美術では、主題を生み出す、高校では、主題を生成することを非常に大切にしています。表現の中で、表したいことや主題は、自分事になって初めて生み出されます。鑑賞のときには、自分としての意味や価値をそこからつくっていく。対象に価値があるのではなくて、見る人がもったりつくりだしたりする価値が、その対象の価値とも考えられます。作品と自分との関係性の中で、自分事が生まれて初めて価値が生まれてくる。だから教師の必然性だけではなく、子どもたちの必然性が非常に重要です。そして、題材を設定するときには、やはり子どものことを知らないと、子どもにとって自分事になるような題材を設定できないのです。

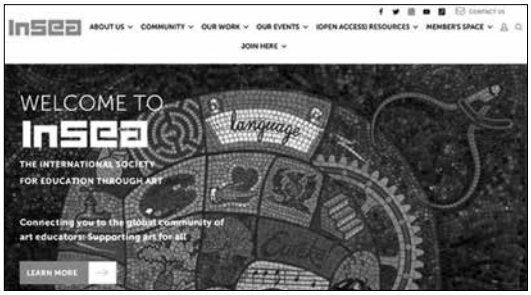
これらを前提にしながらも、描いたりつくったり見たりするのは、一体何のためにするのかという、ここを今まで以上に明らかにしておかないといけない。そして、そのことを先生だけが分かってるのではなく、子どもとちゃんと共有すること。次の改訂に向けて、そのことを積み重ねていくことが大事だと思います。我々は、個別最適な学びも、協働的な学びも、それから令和日本型教育の答申の前書きにある、子どもたちを主体とした学びも、これまでずっと大切にしてきました。このことに自信をもって、これからもやっていく。そして、これからの社会のあり方や変化、こういったものに対して、学びの本質的なパラダイム転換をすることができるかです。この辺りに次の改訂の肝となる部分が出てくるのではないかと思います。

国際局より

■InSEA（国際美術教育学会）よりお知らせ■

国際局局員　佐　藤　真　帆

皆さんは，日本美術教育連合が、InSEA（International Society for Education through Art）の加盟団体（Affiliate member）であることをご存知でしょうか。日本美術教育連合はInSEAと国際的な美術教育の研究と実践の推進というミッションを共有し、活動しています。このInSEAについてよく知るためには、最近リニューアルしたInSEAのホームページ（https://www.insea.org）を参考にすることをおすすめしたいと思います。現在のホームページは英語以外の言語での表示が可能であり、日本語表示でも利用が可能です。このことは、InSEAの活動が広く多様でインクルーシブな社会づくりに貢献したいということの一つの表れでもあります。異文化間の理解には英語でのミュニケーションは重要であるように思われますが、InSEAは多様な言語（文化）が尊重されなければならないとも考えており、特に重要なメッセージは世界評議委員や多くのボランティアによって翻訳されています。



InSEA ホームページ

これまでInSEAのイベントは申し込み方法がわかりづらいなどの問題がありました。現在はInSEAのホームページのOur EventsのInSEA box officeから申し込みができます。例えば、webセミナーは誰でも参加できるイベントですが、申し込みはこのInSEA box officeからできます。また、どんなイベントが行われているのか知りたい時はEvents Calendarで確認できます。

InSEA box officeのアイコン

2023年の大きなイベントとしては、2023年９月４－８日にトルコ（チャナッカレ）でInSEA 世界大会（Çanakkale, Western Turkey）が開催されます。チャナッカレはトロイの木馬で有名です。InSEAにとっては久しぶりの対面形式を入れた学会開催となります。詳しくはInSEAホームページ及び大会ホームページ（https://www.insea2023.org）をご参照ください。

InSEA 国際学会ホームページ

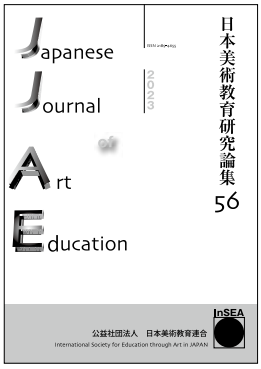
事務局より

■事務局便り■

事務局長　畑　山　未　央

□会員の異動

〈退会者〉増田金吾様、奥村高明様
（これまで連合を支えていただき、ありがとうございました）
〈入会者〉川人武様、淺野卓司様、茂木陽子様、眞柴さなえ様、成清北斗様、薦田梓様
（どうぞよろしくお願いいたします）



□『日本美術教育研究論集　第56号』が発刊されました

すでに会員の皆様のもとに届けられていることと思いますが、今号の論集は21本の優れた論文を掲載することができました。加えて巻末には、「2022年定時総会記念シンポジウムの記録」も掲載いたしました。新型コロナウィルスの行動制限が徐々に緩和されてきた中で、研究活動も少しずつ回復の兆しを感じることができています。ご執筆いただいた皆様には深く感謝申し上げます。会員の皆様におかれましては、本年度も積極的に研究発表・論文執筆をご計画いただいきますようお願い申し上げる次第です。

□2022年度の会費納入をありがとうございました

本会の運営は、公益に資することを第一の目的として、会員皆様方の貴重な会費によって成り立っております。会員・賛助会員の皆様のご協力により、昨年度も「第56回日本美術教育研究発表会2022」「造形・美術教育力養成講座」「造形美術教育フォーラム2022」を開催し、それぞれ大きな成果をあげることができました。引き続き、皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。なお、３年連続会費未納入の会員様につきましては、残念ながら「退会」の対応をとらせていただくことになります。昨年度の会費をまだお納めいただいていない方は、至急ご入金いただきますよう何卒お願い致します。また、異動や住所変更等の際には、下記事務局まで、メールにてご一報いただければ幸いです。

〇昨年度（2022年度）会費未納の方は、急ぎ会費6,000円を下記まで納入してください。
（＊本年度（2023年度）の会費納入については、次回のニュース168号（７月発行予定）にてお願いする予定です。）
【郵便振替】（公社）日本美術教育連合　郵便振替00170-1-86036
※ゆうちょ銀行以外の金融機関（ネット銀行を含む）からの振込先※
《銀行名》ゆうちょ銀行《支店番号》019《預金種目》当座《口座番号》0086036
〇お問い合わせ先（事務局）
植草学園大学 発達教育学部 畑山未央（E-mail: mio.h1226@gmail.com）

■令和５（2023）年度第13回定時総会 招集通知■

2023年度第13回定時総会を下記のように開催いたします。総会終了後には記念シンポジウムも行いますので、あわせて多数ご出席くださいますようお願い申し上げます。

■日時：令和５（2023）年５月14日（日）午後13：00 ～ 14：00
■場所：東洋大学白山キャンパス５号館１階5104教室（予定）
■方法：対面及びZoomシステムによるハイブリッド開催
・ミーティングID：816 7920 1724 / パスコード：580929（会員専用）
・URLは連合ホームページに掲載します。上記ミーティングID、パスコードを入力の上、入室してください。
・オンライン参加の際、ニックネームでの入室はご遠慮ください。お名前を確認の上、入室を承認いたします。

■定時総会「出欠はがき」の提出にご協力ください
総会成立の可否は、公益社団法人法によって厳密に規定されています。必ず同封の「出欠はがき」（委任状含む）を返送していただきますようお願い申し上げます。
＊総会議案は５月１日以降、連合ホームページ(https://insea-in-japan.or.jp/)に掲載します。

■令和５（2023）年総会記念講演会■

■日時：令和５（2023）年5月14日（日）午後14:30 ～ 16:30（総会終了後）
■方法：対面及びZoomシステムによるハイブリッド開催
■お申込み：URL/QRコードよりアクセスして申し込み（詳しくは、ニュース案内・ＨＰを参照）
■題目：「ヒトに寄り添うモノ」と「モノに寄り添うヒト」
■講師：医学者　富田直秀（京都市立芸術大学客員教授，京都大学名誉教授）
■参加費：無料（会員以外の方の参加も大歓迎です。お知り合いの方に広く呼びかけていただければ幸いです）